

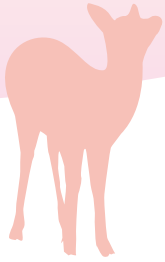


まほろばだより

2013
Summer
vol.05

公立大学法人 奈良県立医科大学 女性研究者支援センター

第5号



Contents

- ④ 女性研究者支援・病児保育に関するアンケートを実施しました
- ④ センターの3つ折りパンフレットが新しくなりました!
- ④ 女子学生、女性教員の交流会を開催しました
- ④ コミュニケーションスキルを学ぼう! 第5回「ストレスのサイン」

▶▶ Report 1

女性研究者支援・病児保育に関するアンケートを実施しました

今年度が文部科学省「女性研究者研究支援活動事業」採択の最終年度となりました。これまでセンターで行ってきた活動の認知度や病児保育に関する意見把握のため、平成24年3月に本学および附属病院の全教職員を対象にアンケート調査を実施しました。今回はアンケートの調査結果の一部をご紹介します。

女性研究者研究活動支援に関するアンケート集計結果

調査時期：平成25年3月9日～31日

配布数：2272

調査方法：質問票を各部署に配布し、各自に記入してもらい、部署毎に集めたものを回収

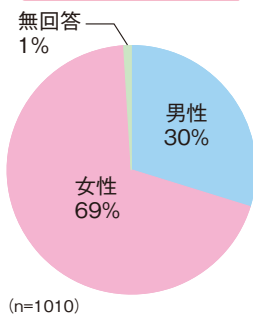
回収数：1010

調査対象：奈良県立医科大学および附属病院に勤務する教員および職員（非常勤を含む）

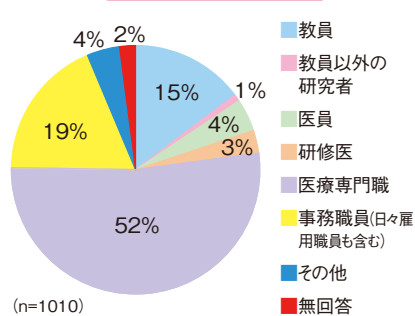
回収率：44.5%

● 回答者の内訳

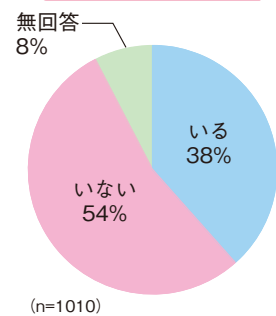
性別



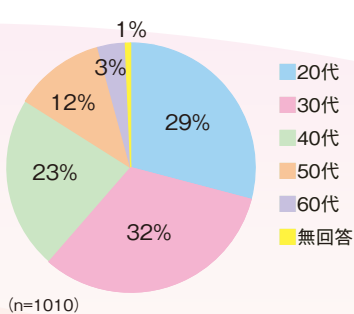
職種構成



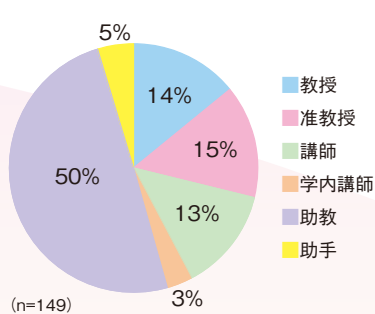
子どもの有無



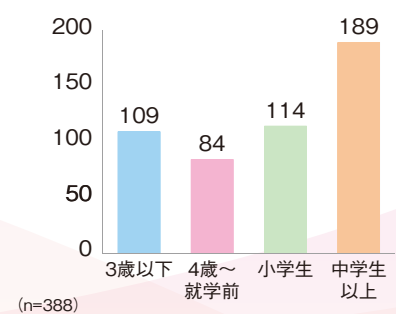
年齢構成



教員の職階

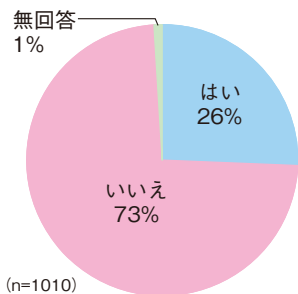


子どもの年齢

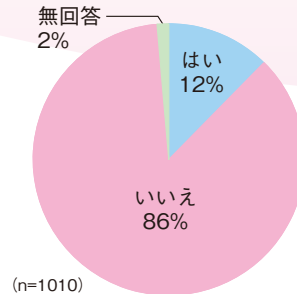


● 女性研究者支援に関する質問

Q1 本学が、文部科学省科学技術人材育成費補助金「女性研究者研究活動支援事業」に採択されたことをご存知でしたか。

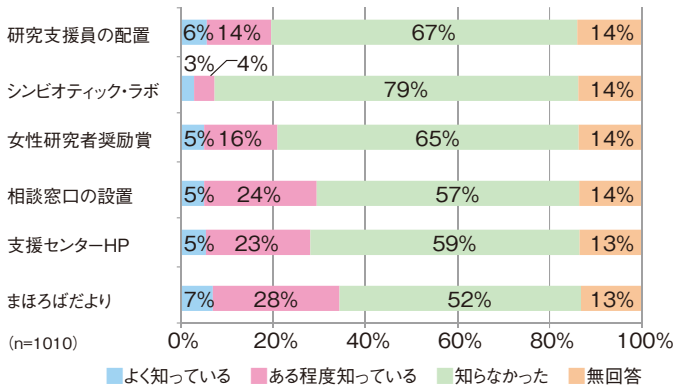


Q2 本センターでは新規参入女性教員・研究者の比率の増加目標*を示していますが、このことをご存知でしたか。



*平成 25 年度内に、医学部女性教員比率を 18% (平成 22 年度) → 21%
医学部全体の女性研究者比率を 23% (平成 22 年度) → 26%

Q3 あなたは、これまで本センターが行ってきた次の活動をご存知ですか。

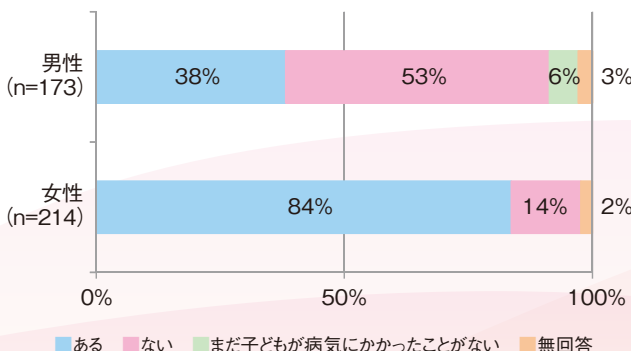
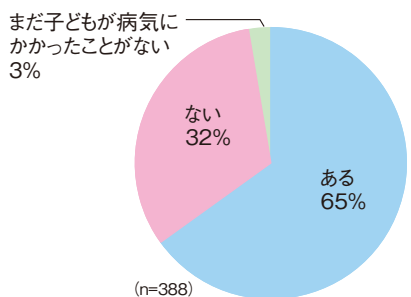


女性研究者支援に関する質問に対しては、教員の間では周知率が高いものの、医員・医療専門職の方々の間ではあまり周知がされていないという状況でした。今回のアンケート結果から、事業の取り組みに、より一層工夫が必要であることが分かりました。

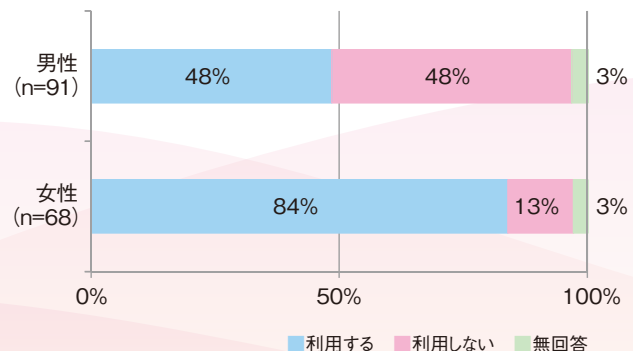
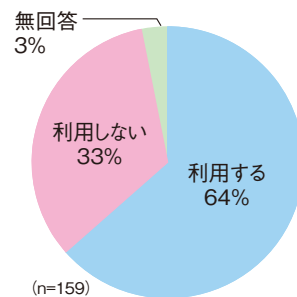
また、支援対象の拡大やハラスメントに関する意見も多くいただきましたので、今後の活動の参考にさせていただきます。

● 病児保育に関する質問

Q1 勤務日に子どもが病気により通学、通園できずに困ったことがありました(子どもがいる方のみ回答)

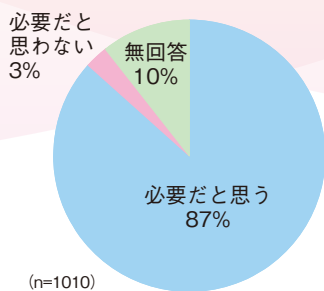


Q2 現在、就学前の子どもをお育ての方にお聞きします。奈良県立医科大学内に病児保育室ができれば利用しますか。



Q3

奈良県立医科大学内に病児保育室は必要だと思いますか。



奈良医大での病児保育の実施を要望する声が多く上がっていました。子どもが熱を出しても急に仕事を休むことが出来ない、病児保育があれば安心して働ける、核家族で共働きの場合には支援がないとやっていけないなど様々な意見がありました。また、子どもは健康でも学級閉鎖などで対応に困る、小学生にも病児保育の対象を広げてほしいといった声もありました。

まずは子どもが病気の際に休める環境づくりが大切であり、やむを得ず休暇を取ることができない場合に備えて病児保育が必要であることが分かりました。

今回のアンケートにご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

なお、こちらのアンケートについては、報告書も作成いたしますので、図書館などで是非手にとってご覧ください。

Report 2

女子学生・女性教員の交流会を開催しました

6月6日、女性研究者支援センターで医学科学生2名、研修医3名、本学卒業の先生方3名が集まって交流会を行いました。医師や研究者になって働かだしても、やはり女性が少ない職場が多くあります。この交流会は、女性に年代を問わず参加してもらい、皆で気軽に情報交換をする機会を設けようと企画したものです。専門の科を選んだ理由や医局ってどんな所？実際医師として働いて結婚・出産はどうしたらいい？など様々な質問や経験談が飛び交いました。現在、行政でご活躍の先生からは、行政ではこういった仕事をされているのかもお話いただきました。



今回は小規模での交流会でしたが、とても盛り上がりました。次回からはもう少し規模を広げての開催を考えていますので、みなさん是非ご参加ください！

Report 3

センターの3つ折りパンフレットが新しくなりました！

女性研究者支援センター「まほろば」の活動内容を紹介している3つ折りパンフレットを新しくリニューアルしました。主な活動内容や、達成目標などを分かりやすく紹介しています。

図書館や学生ホールに常時置いてありますので、是非手にとってご覧ください！



ハラスメントを未然に防ぐためのコミュニケーションスキルについて毎号ご紹介していきます。

第5回 『ストレスのサイン』

新入学、新入社、人事異動などで、多くの人々の環境が変化し、新しい生活にも慣れてきたところではないでしょうか？環境の変化に期待がある分、不安もあるかと思います。その不安を解消するために、上手くやっ払いこうと緊張感をもって頑張ってきたけれど、最近体調がすぐれなかったり、どうも気持ちが沈んでいるような気はしていませんか？

ストレスは様々なかたちであらわれます！

身体面

頭痛、胃痛、食欲不振、吐き気、下痢、不眠、めまい、脱毛など



心理面

やる気が出ない、焦りを感じる、イライラする、悲しい、不安、無力感、集中できないなど



行動面

遅刻や早退・欠勤(欠席)が増える、ミスが増える、拒食、過食、生活リズムが不規則になる、周囲との交流を避けるようになる、攻撃的になる、アルコール摂取や喫煙の増加など



職場においては人間関係のトラブルや仕事の量の増加、役割や地位の変化によって自分では気がつかないうちにストレスがかかっていることもあります。まずは自分自身の体調や心の変化に早めに気付くことが大切です。また、周囲への配慮も忘れないようにしましょう。特に管理職の方は部下たちの日常の言動にも目を向けて、何かいつもと違う変化があれば早めに対処するようにしてください。そして、休暇のとりやすい環境づくりも大切です。きちんと休息をとることで、ストレスの緩和・疲労回復により集中力が高まり、仕事の生産性も上がります。

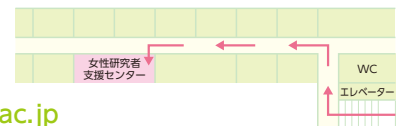
相談窓口 のご案内

女性研究者支援センター「まほろば」では、本学および附属病院の構成員の方であれば、どなたでもご相談を受け付けております。男女や職種、常勤・非常勤など関係なく、ハラスメントや人間関係等で悩んでおられる方は一人で抱え込まず、ご相談ください。まずは支援センターのマネージャーが相談に応じます。状況に応じて心理相談員とも面談を行い、必要な支援を一緒にお探し、解決を図ります。相談の際のプライバシーは必ず守られますので、ご安心下さい。

ご相談は、電話やメールで随時受け付けております。

女性研究者支援センター「まほろば」基礎医学校舎5階

TEL: 0744-23-8011 (直通) E-mail: jshien@narmed-u.ac.jp



【編集後記】

先日、お昼休みを利用してセンターのスタッフで、本学のすぐ近くにある「おふさ観音」というお寺で開催されているバラまつりを見に行ってきました。境内には、2300種類ものバラの花が綺麗に咲いていました。おふさ観音は、「訪れる人が元気になれる寺」として年間を通して様々な催しを行われているそうです。センターでも今年も様々なイベントを開催予定ですので、みなさんは是非ご参加ください！

【編集・発行】

奈良県立医科大学 女性研究者支援センター「まほろば」
〒634-8521 奈良県橿原市四条町840
奈良県立医科大学 基礎医学校舎5階
TEL: 0744-23-8011 (直通) 0744-22-3051 (代) 内線: 2525
E-mail: jshien@narmed-u.ac.jp

